

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
国語総合		1 学年	4	1 4 0 時間	必修
教科書（出版社）		第一学習社『高等学校 改訂版 国語総合』			
担当教員		小西・新妻			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容に基づき、国語を的確に理解し適切に表現する能力を育成し、伝え合う能力を高める。 ・思考力を伸ばし心情を豊かにするとともに、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めることにより国語を尊重しその向上に努める態度を育てる。 ・大学短大入試や公務員試験にも対応できる国語常識力・語彙力を身につける。 ・古典を楽しむ態度を育て、伝統文化を大切にしようとする意欲を高める。 				
授業内容	1 学期	<p>〈現代文〉 随想 「驚くという才能」 清水眞砂子</p> <p>目標 1 随想の文章の流れをつかみ、筆者の思いや考えを理解する。 2 筆者の文章の筋道をたどり、自らの思考や視野を拡大する。</p> <p>小説 「羅生門」 芥川龍之介</p> <p>目標 1 登場人物の心理や情景描写による比喩を学ぶ。 2 短編小説の技巧を味わい、読解力を養う。</p> <p>評論 「水の東西」 山崎正和</p> <p>目標 1 評論の文体に慣れ、論理展開を理解する。 2 比較文化的な観点から文化を理解する。</p> <p>〈古文〉 基礎「児のそら寝」「かぐや姫の生ひ立ち」</p> <p>1 古文に親しみを持ち、内容を理解する。 2 古典文法の基礎知識を身につける。</p>	授業時数	50	図書館・ICT 機器利用 なし
	2 学期	<p>短歌と俳句 「その子はたち」 「こころの帆」</p> <p>目標 1 短歌や俳句読み味わい、巧みな表現技法を学ぶ。 2 歌人や俳人の人物像、文学史上の位置づけを学ぶ。</p> <p>評論 「ネットが崩す公私の境」 黒崎政男</p> <p>目標 1 評論の文体に慣れ、論理展開を理解する。 2 筆者の問いかけに対して自分の意見を構築する。</p> <p>小説 「夢十夜」 夏目漱石</p> <p>目標 1 小説の独自の構成、視点に関心を持つ。 2 作品が表象するものを的確に捉え、人間について深く考える。</p> <p>（古文） 「伊勢物語」「徒然草」</p> <p>1 基礎的な古典文法を身につけ、読解力を養う。 2 古人の考え方やものの感じ方を学び、自身のそれと比較考察する。</p>	50	なし	

	<p style="text-align: center;">3 学 期</p>	<p>評論「間の感覚」高階秀爾</p> <p>1 評論の文体に慣れ、論理展開を理解する。</p> <p>2 1学期に学習した「水の東西」を思い出しつつ西洋と日本の比較文化論を考察する。</p> <p>小説 「城崎にて」 志賀直哉</p> <p>1 小説における対比的表現の効果について考察を深める。</p> <p>2 近代的自我のあり方を学び、自己認識力を高めていく。</p> <p>(漢文)「漢文入門」「虎借狐威。」</p> <p>1 基本的な漢文訓読法を身につけ、読解力を味わう。</p> <p>2 故事成語の由来と意味を学ぶ。</p> <p>※生徒の理解度、その他の事情により、必ずしも計画通りに展開するものではない。</p>	<p style="text-align: center;">40</p>	<p style="text-align: center;">なし</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価の観点・ 方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度 ・ 小テスト ・ 年間五回の定期考査において、個々の理解度・習熟度を確認し、総合的に評価する。 ・ 授業への取り組みと課題の提出。 			

科目名	配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
地理A	1	2	70	必修
教科書（出版社）	「地理A(東京書籍)」、「新詳高等地図(帝国書院)」			
担当教員	橋本 拓興・笹本 明男			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の生活・文化に関し、その地域的特色と共通の課題を理解させる。 ・世界を大小さまざまな地域的まとまりとして考察させる。 ・生徒の主体的・創造的な学習能力の育成を図る。 ・生徒の地理に対する興味・関心を深め、地理的な見方や考え方を養う。 			
授業内容	1 学期	1 地球儀や地図からとらえる世界 (1) 地球儀や地図からとらえる世界 (2) 日本の位置と領域 2 世界的視野から見た自然環境と文化 (1) 生活の舞台としての地形 (2) 生活の舞台としての気候	授業時数 24	図書館・ICT 機器利用 ICT 機器利用
	2 学期	(3) 生活の様式としての文化 (4) 生活の基盤としての産業 3 諸地域の生活・文化と環境 (1) アジア 自然環境、歴史と文化、産業、日本との結び付き (2) ヨーロッパ 自然環境、歴史と文化、産業、日本との結び付き (3) アフリカ 自然環境、歴史と文化、産業、日本との結び付き (4) アングロ・ラテンアメリカ 自然環境、歴史と文化、産業、日本との結び付き	28	ICT 機器利用
	3 学期	(5) オーストラリア 自然環境、歴史と文化、産業、日本との結び付き 4 日本の自然環境と防災 (1) 日本の自然環境 (2) 地震被害と防災 (3) 火山災害と防災 (4) 風水害・雪害と防災 (5) 災害に備える	18	ICT 機器利用
評価の観点・方法	①学習活動を通じて、地理的な見方や考え方を身に付けることができたか。 ②現代社会の様子や問題について、地理的な観点から理解を深めることができたか。 上記のことについて <ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の定期考査の成績により、学習内容を理解しているか把握する。 ・プリント・課題提出、授業態度、出席状況等により日常の学習状況を把握する。 ・日常の学習状況や定期考査の結果等により、学習目標の達成度を10段階で評価する。 			

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
数学 I		第 1 学年	3	105	必修
教科書 (出版社)		新版 数学 I (実教出版)			
担当教員		加藤木 三浦 荻野 樺島			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 各事項について理解させ、基礎的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる 				
授業内容	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ① 整式 ② 実数 ③ 方程式と不等式 ④ 関数とグラフ 	授業時数	36	図書館・ICT 機器利用 なし
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ① 2 次関数の最大・最小 ② 2 次関数と方程式・不等式 ③ 鋭角の三角比 	42	なし	
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ① 鈍角の三角比 ② 正弦定理と余弦定理 ③ データの分析 命題と条件 	27	なし	
評価の観点・方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 年間 5 回の定期考査 ② レポートや問題集、ノート等の提出 授業中の取り組み等 				

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
数学 A		第 1 学年	2	70	必履修
教科書（出版社）		新版 数学 A 実教出版)			
担当教員		加藤木 石井 樺島			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 数学 A は大きく分けて、確率（事前分野としての集合、順列・組合せ）と、整数の性質、平面図形の 3 分野になる。これから学んでいく高等学校の数学の計算力を含め、基本的な考え方を養う 				
授業内容	1 学期	図形の性質 三角形の外心・内心・重心・三角形の辺と角 チェバ、メネラウスの定理・方べきの定理 場合の数と確率 集合 集合の要素の個数、場合の数 順列・組合せ	授業時数	24	図書館・ICT 機器利用 なし
	2 学期	いろいろな順列、組合せ 事象と確率 確率の基本的性質 独立な試行、反復試行 条件付き確率、確率の計算	28	なし	
	3 学期	整数の性質 約数と倍数、ユークリッドの互除法と不定方程式	18	なし	
評価の観点・方法	③ 年間 5 回の定期考査 ④ レポートや問題集、ノート等の提出 授業中の取り組み等				

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
化学基礎		1	2	70	必修
教科書（出版社）		改訂版新編化学基礎（数研出版）			
担当教員		原田 岩崎 兵藤			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解する。 ICTを活用した授業や実験などを行い、科学的な思考力や科学的に探究する態度を養う。 演習や実験などを行い、化学に関する計算技能や科学的に探究する技能を身に付けるようにする。 				
授業内容	1学期	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 混合物と純物質、物質とその成分、物質の三態、 第2章 物質の構成粒子 原子とその構造、イオン、元素の周期表 第3章 粒子の結合 イオン結合とイオンからなる物質、分子と共有結合、 共有結合結晶、金属結合と金属	授業時数	24	図書館・ICT機器利用 ICT パソコンなど
	2学期	第2編 物質の変化 第1章 物質質量と化学反応式 原子量・分子量・式量、物質質量、溶液の濃度、 化学反応式と物質質量 第2章 酸と塩基の反応 酸・塩基、水の電離と水溶液のpH、中和反応、塩	28	ICT パソコンなど	
	3学期	第2編 物質の変化 第3章 酸化還元反応 酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、 酸化還元反応の利用	18	ICT パソコンなど	
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 課題や授業プリントなどの提出 授業に臨む態度など 				

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
生物基礎		1	2	70	必修
教科書（出版社）		高校生物基礎 新訂版（実教出版）			
担当教員		山成貴士 岩崎香織 山口哲男			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 自然界の多様な現象を理解し、数式等を用いて正しく記述することができる。 自然界のさまざまな現象を理解し、説明することが出来るようになる。 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 				
授業内容	1 学期	生物の特徴 ① 生物の多様性と共通性 ② 細胞とエネルギー 遺伝子とその働き ① 遺伝情報と DNA ② 遺伝情報の分配 ③ 遺伝情報とタンパク質の合成	授業 時数	26	図書館・ICT 機器利 用
	2 学期	生物の体内環境とその維持 ① 体内環境 ② 体内環境の維持の仕組み ③ 免疫		32	
	3 学期	生態系 ① 植生と遷移 ② 気候とバイオーム ③ 生態系と物質循環 ④ 生態系のバランスと保全		18	
評価の観点・方法	定期考査、平常点を総合的に評価する。 <ul style="list-style-type: none"> 平常点は授業態度、提出物を参考に点数をつける。 授業中の携帯使用、私語等は減点対象とする。 				

科目名	配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
体育	1 学年女子	3	105	必修
教科書（出版社）				
担当教員		田中・樺澤・中島		
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わう。 ・体力の向上を図り公正、協力、責任などの態度を育てる。 ・生涯にわたって計画的に運動に親しむ能力を育てる。 			
授 業 内 容	1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動 集団行動のおもな行動様式を身につけ、秩序正しく、能率的に学習を行なえるようにする。 ・体づくり(基礎体力づくり・体力測定) 自己の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践する。また統一スポーツテストの実施により、自己の体力・運動の適性を知る。 ・ラジオ体操第1の習得を図る。 ・ダンス1 基本的な動きを身につける ・水泳 クロール、平泳ぎを習得し、25mの記録を計測する。 ・体育理論1 体育授業の必要性等、オリンピック・パラリンピック推進について 	授 業 時 数	図 書 館 ・ I C T 機 器 利 用
	2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス1 基本的な動きを身につける ・縄跳び 基本的な技術を身につけさせる。より高度な技術に挑戦し、記録を高められるようにする。 ・球技 1 ソフトボール 基本的な技術を充実させる。ルールを理解し、ゲームの中で組織的なプレーができるようにする。 2 バレーボール 基本的な技術(サーブ、レシーブ、トス、スパイク)を充実させる。ルールを理解し簡易ゲームができるようにする。 ・体育理論2 水泳授業による心肺機能の向上とトレーニング等、オリンピック・パラリンピックについて 	4 2	
	3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 1 バスケットボール 基本的技能である各種のパス、ドリブル、シュートを身につけさせる。ゲームを通して、ルールを覚えさせ、安全で楽しい試合展開にさせる。 2 サッカー、アルティメット ネット型のゲームの特性を理解し、各種打ち方を習得しシングルス及びダブルスのゲームができるようにする。 ・持久走 距離を走る特性を理解し段階的練習により、記録を高められるようにする。 ・体育理論3 持久走による心肺機能の向上と縄跳びトレーニング等 オリンピック・パラリンピックについて 	2 7	

評価の
観点・
方法

・実技点・出席点・平常点を総合的に判断して評価する。

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
体育		1学年男子	3	105	必修
教科書(出版社)					
担当教員		田中・樺澤・柳屋			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わう。また、 ・体力の向上を図り公正、協力、責任などの態度を育てる。 ・生涯にわたって計画的に運動に親しむ能力を育てる。 				
授業内容	1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動 集団行動のおもな行動様式を身につけ、秩序正しく、能率的に学習を行なえるようにする。 ・体づくり(基礎体力づくり・体力測定) 自己の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践する。また新スポーツテストの実施により、自己の体力・運動の適性を知る。 ・ラジオ体操第1の習得を図る。 ・柔道は礼法、基本動作を身につける。 ・水泳はクロールと平泳ぎを習得し、25mの記録を計測する。 ・体育理論1 体育授業の必要性等、オリンピック・パラリンピックについて 	授業時数	36	図書館・ICT機器利用
	2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道は受け身がしっかりできるようにする。 ・球技 1 サッカー 基本的な技術を身につける。トラップとパスを覚える。サッカーの技術と戦術を身につけ、それらをゲームで発揮できるようにする。 2 バレーボール 基本的な技術(サーブ、レシーブ、トス、スパイク)を充実させる。ルールを理解し簡易ゲームができるようにする。 ・体育理論2 水泳授業による心肺機能の向上とトレーニング等、オリンピック・パラリンピックについて 	42		
	3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道は寝技を覚える。 ・球技 バasketボール 基本的技能である各種のパス、ドリブル、シュートを身につけさせる。ゲームを通して、ルールを覚えさせ、安全で楽しい試合展開にさせる。 ・持久走 距離を走る特性を理解し段階的練習により、記録を高められるようにする。 ・縄跳び 基本的な技術を身につけさせる。より高度な技術に挑戦し、記録を高められるようにする。 ・体育理論3 持久走による心肺機能の向上と縄跳びトレーニング 	27		

		等、オリンピック・パラリンピックについて		
点・ 方 法	評 価 の 観	○実技点・出席点・平常点を総合的に判断して評価する。		

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
保健		1学年	1	35	必修
教科書（出版社）		現代保健体育 改訂版			
担当教員		田中・樺澤・柳屋			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 個人及び社会生活における健康安全について理解を深める。 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質と能力を育てる。 				
授業内容	1 学期	1 現代社会と健康 現代の健康問題や新しい時代の健康のあり方などについて学習する。また、それぞれに関する情報を示し、理解を深め、実生活の中で役立てることが出来るようにしていく。 1. 私たちの健康のすがた 2. 健康のとらえ方 3. 健康と意思決定・行動選択 4. 健康に関する環境づくり （歴史からみたさまざまな健康のとらえ方） 5. 生活習慣病とその予防	授業 時数	12	図書館・ICT機器利用
	2 学期	6. 食事と健康 7. 運動と健康 8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康 12. 健康にかかわる意思決定・行動選択 13. 現代の感染症 14. 性感染症・エイズとその予防	14		
	3 学期	15. 欲求と適応規制 16. 心身の相関とストレス 17. ストレスへの対処（ストレスに対処しよう） 18. 心の健康と自己実現 19. 交通社会の現状と原因 20. 交通社会における運転者の資質と責任 21. 安全な交通社会づくり （防災・防犯をめざした社会づくり） 22. 応急手当の意義とその基本 23. 心肺蘇生法 24. 日常的な応急手当（心配蘇生法を実習しよう）	9		

評価の
観点・
方法

○出席・授業態度、ノート・レポート、テストを総合的に判断して評価する。

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
芸術科書道Ⅰ		1年	2	70	選択
教科書（出版社）		『書道Ⅰ』（東京書籍）			
担当教員		永田 啓子			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・書道を学ぶことの意義を理解する ・五書体を知る ・中国書道史を知り、漢字作品に活かせる ・日本書道史を知り、仮名作品に活かせる 				
授業内容	1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・書道を学ぶことの意義を理解する ・漢字の成り立ちと五書体を知る（書道史を簡単に踏まえる） ・唐の四大家を知る ・用筆法と字形の整え方を学ぶ ・虞世南、欧陽詢、褚遂良、顔真卿の楷書を学ぶ ・北魏の楷書、六朝の墓誌銘の楷書を学ぶ 	授業時数	図書館・ICT機器利用	
	2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・王羲之「蘭亭序」より、行書を学ぶ ・顔真卿の行書を学ぶ ・空海「風信帖」より、行書を学ぶ ・草書に親しむ ・隸書に親しむ ・篆書に親しむ ・漢字の作品を制作する 	24		
	3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の古筆を学ぶ ・仮名の用筆を学ぶ ・仮名の作品を制作する 	28		
評価の観点・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の書を踏まえ、字形・用筆、並びに精神性を学んでいるか ・確認プリント、定期考査で所論の習熟度を計る ・書作品の実践で、字形・用筆の習熟度を計る 				
			18		

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
美術 I		1 年	2	70	必修
教科書（出版社）		光村図書出版 美術 1			
担当教員		橋岡昭男 千葉 光			
学習の目標	多様な表現形式についての理解を深め、幅広い活動を展開し、美的体験を豊かにする。 美術を愛好する心情を育て、生涯にわたり美術を楽しむための基礎を養う。				
授業内容	1 学期	デッサン デッサンの基礎（静物） 色彩 色の三属性 デザイン マークの制作	授業 時数	24	図書館・ICT 機器利 用
	2 学期	イラスト 多版多色刷り木版画 人のいる風景 水彩画 静物	28		
	3 学期	デザイン ポスターの制作	18		
評価の観点・方法	創造的活動を体験させ、美的体験を豊かにする。 美術を愛好する心情を育て感性を高める。 鑑賞の能力を高める。				

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別	
芸術科音楽 I		1	2	70	必修	
教科書（出版社）		Tutti I（教育出版）				
担当教員		舘 弓子				
学習の目標	・音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。					
授業内容	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 表現（歌唱）：独唱 ◆ 表現（器楽）：ギター①奏法を学習しよう ◆ 理論：楽典の基礎（音符・休符、リズム） ボディーパーカッション 		授業 時数	24	図書館・ICT 機器利用 ◆表現(歌唱) : CD
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 鑑賞：音楽で表現される物語を感じよう ◆ 表現（歌唱）：合唱・重唱 ◆ 表現（器楽）：ギター②奏法を活かした演奏をしよう ◆ 理論：楽典の基礎（音名・音高） 		28	◆鑑賞 : ミュージカル 映像	
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 表現（歌唱）：表現を工夫して伝える合唱をしよう <p>上記授業内容は生徒の実状を踏まえ、適切に変更することがある。</p>		18	◆表現（歌唱） : 歌唱映像	
評価の観点・方法	観点 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 音楽や音楽活動に対する関心・意欲・態度 ◆ 音楽表現の創意工夫 ◆ 音楽表現の技能 ◆ 鑑賞の能力 		方法 <ul style="list-style-type: none"> ◆ プリント提出 ◆ 実技試験 ◆ 期末考査 ◆ 観察法 			

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
英語表現Ⅰ		1年	2	57	必修
教科書（出版社）		BIG DIPPER English Expression I 数研出版 Evergreen いいずな書店 Evergreen English Grammar 23 Lessons いいずな書店 Evergreen 25 Lessons Workbook いいずな書店			
担当教員		加藤哲、高橋、山本、宅、宮井			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・コミュニケーションの基礎となる文法・語法を理解し使えるようにする。 ・必要な情報を聞き取って、それに対する応答ができる。 ・聞き手や目的に応じて発話したり英語で文を書くことができる。 				
授業内容	1学期	Lesson1 動詞と時制（1） Lesson2 動詞と時制（2） Lesson3 動詞と時制（3） Lesson4 完了形（1） Lesson5 完了形（2） Lesson6 助動詞（1） Lesson7 助動詞（2） Plus 助動詞 Lesson8 態（1） Lesson9 態（2） Plus 態	授業時数	20	図書館・ICT機器利用
	2学期	Lesson10 不定詞（1） Lesson11 不定詞（2） Lesson12 不定詞（3） Plus 不定詞① Plus 不定詞② Lesson13 動名詞 Plus 動名詞 Plus 動名詞と不定詞 Lesson14 分詞（1） Lesson15 分詞（2） Lesson16 分詞（3） Plus 分詞 Lesson17 比較（1） Lesson18 比較（2） Plus 比較	22		

	3 学 期	Lesson19 関係詞 (1) Lesson20 関係詞 (2) Lesson21 関係詞 (3) Plus 関係詞 Lesson22 仮定法 (1) Lesson23 仮定法 (2) Plus 仮定法 Lesson24 否定 Lesson25 接続詞	15	
評価 の 観 点 ・ 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の素点 ・ ワークブック、ノート、プリントなどの提出物 ・ 小テスト、授業態度 ・ 出席状況 <p>以上を総合的に見て評価する。</p>			

科目名	配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
コミュニケーション英語 I	1	3	105	必修
教科書（出版社）	Power On Communication English I（東京書籍） 英単語ターゲット 1200 旺文社 英単語ターゲット 1200 Workbook 1 旺文社 英単語ターゲット 1200 Workbook 2 旺文社 英単語ターゲット 1200 Workbook 3 旺文社 Power On English Communication I WORKBOOK 東京書籍 Spotlight Book2 数研出版			
担当教員	加藤哲、高橋、伊藤			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の知識を土台として、まとまった内容の文章を読み、理解する。 ・様々な国の文化に触れ、国際的な視野を持つ。 ・日常生活に必要な基礎的な表現を身につける。 ・現代社会の様々な問題への理解を深める。 			
授業内容	1 学期	Lesson 1 Mt. Fuji A symbol of Japan Lesson 2 Sleep in Animals Lesson 3 Nagatomo Yuto A Long Hard Road to Success Lesson 4 Kawaii and Japanese Pop Culture	授業 時数 36	図書館・ICT 機器利 用
	2 学期	Lesson 5 Banana Paper Lesson 6 A story about Instant Noodles Lesson 7 The Earth, Our Home! Lesson 8 Mr. Fija and Uchinaaguchi	40	
	3 学期	Lesson 9 The Power to Unite People Lesson 10 Carving for the Future	29	
評価の観点・方法	定期考査の素点 ・ワークブック、ノート、プリントなどの提出物 ・単語テスト、授業態度 ・出席状況 以上を総合的に見て評価する。			

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
社会と情報		1 学年	2 単位	70 時間	必修
教科書（出版社）		社会と情報（日本文教出版）			
担当教員		鈴木 勝雄			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報社会における、情報および情報技術の理解を深めるとともに活用する能力を育む。 ・ 現代の情報化の流れに対応できる能力を養う。 ・ 情報について科学的に考察する。 				
授業内容	1 学期	情報についての理論・知識についての座学（週 1 時間） <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報とメディアの特徴 ・ 情報の表現と伝達 ・ 情報のデジタル化 ・ コミュニケーションとメディア パソコンその他の情報機器による実習（週 1 時間） <ul style="list-style-type: none"> ・ ワードプロソフトの演習 ・ 表計算ソフトの演習 	授業時数	26	図書館・ICT 機器利用 CALL 教室で授業を行う。
	2 学期	情報についての理論・知識についての座学（週 1 時間） <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション ・ 情報通信ネットワークのしくみ ・ 情報化が社会に及ぼす影響と課題 ・ 情報社会における情報システム パソコンその他の情報機器による実習（週 1 時間） <ul style="list-style-type: none"> ・ 表計算ソフトの演習 ・ プレゼンテーションソフトの演習 ・ 画像処理ソフトの演習 	26	CALL 教室で授業を行う。	
	3 学期	情報についての理論・知識についての座学（週 1 時間） <ul style="list-style-type: none"> ・ サイバー犯罪とセキュリティ対策 ・ よりよい情報社会を目指して パソコンその他の情報機器による実習（週 1 時間） <ul style="list-style-type: none"> ・ Web ページ作成の演習 	18	CALL 教室で授業を行う。	
評価の方法・観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の得点 ・ パソコンその他の情報機器の活用能力 ・ 作品・課題等の提出状況とその内容 ・ 授業態度 以上の各観点を総合的に勘案して評価を行う。				

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別	
人間と社会		1	1	35	必修	
教科書（出版社）		「人間と社会」（東京都教育委員会） テキスト等		担当教員：田中・加藤木・兵藤・ 加藤・樺澤・館・高橋		
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の在り方を考え、社会との関わりを考える。自分の幸福と他者の幸福の実現についての考えを深める。 ・望ましい社会生活のための、ものの見方や考え方を醸成する。 ・グループでの話し合いに積極的に参加し、コミュニケーション力をつける。 					
授業内容	1 学期	1 人間 関係を築く 2 役割と責任を考える 3 品川エコフェスティバル、地域とのつながり 4 救命救急講習、地域との防災協力について 5 進路学習、ワークシートを使い、具体的に考察 6 ネット時代		授業 時数	14	図書館・ICT 機器利用 体育館または視聴覚室で実施する場合は、ICT を用いる。
	2 学期	1. チームで活躍することの意義 3. 夢さん橋、地域との協力、奉仕の精神について学ぶ 4. 地域社会を築く 5. マナーと社会のルールについて考える 6. ライフプランの作成に向けて、 具体的なレジュメの作成指導など		16	体育館または視聴覚室で実施する場合は、ICT を用いる。	
	3 学期	1. ライフプランの作成に向けた調査、職業調べなど 2. ライフプランのまとめ、発表準備 3. 上級学校説明会、進路を具体的に意識する 4. ライフプランの発表、相互評価、相互に生き方考えるきっかけとする 5. 支え合う社会		5	体育館または視聴覚室で実施する場合は、ICT を用いる。	
評価の観点・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの在り方や生き方に関して真剣に考察を深めたか、提出物、授業への取り組み方等を総合的に評価する。 					